



伊達 な 小咄

The Date museum presents Date na kobanashi...

伊達博物館スタッフが教える
ちょっとここだけのハナシ...

VOL.3



伊達宗城肖像写真
所蔵：福井市立郷土歴史博物館

■伊達 宗城と武田 栄

■イクメン宗城

「幕末四賢侯」の1人である宇和島8代藩主の伊達 宗城は、江戸期において、10才年上の正室猶姫との間に子女はなかったものの、江戸の側室大岡ゆかとの間に3人、宇和島の側室武田 栄との間に12人の子女をもうけました。子ども好きの宗城は、猶姫と共に、2人の側室から生ま

れた子女を可愛がりました。公務の間に、宗城は幼い子女を抱っこして庭を散歩し、凧あげや花火をして見せてやり、自分の膝を馬にするなどして頻りに遊んでやっています。

また、子女が病気になると寝ずの看病をし、歩き始めたことや人見知りが直ったことなど、

その成長も日記に記しました。

ですが、参勤交代のため、1年ぶりに会う幼い子女たちは、父宗城を見忘れて怖がったり近寄ってこなかったりし、困った宗城はお土産のお菓子やおもちを取り出して与えることもありました。

■ゆかしく思う日々

江戸期の3人の妻妾の中で、宗城が最も寵愛したのが武田 栄です。

当時、江戸と宇和島間の手紙のやりとりには20～30日かかりましたが、宗城は、江戸にいるときは月に2～3通の手紙を宇和島にいる栄と交わしています。

栄は、子女や自分や宇和島の近況を書いた手紙に、青のり、芋の粉、シラス、スルメ、唐饅頭、開きイワシ、焼きハゼなど宇和島の食品を添えました。

宗城は、栄からの手紙を喜び、栄が元気であることや風邪をひいたことに一喜一憂する気持ちや、栄をゆ



かしく思っているときに手紙が来たからすぐに見たことをその日記に記しています。

そんな宗城の心情がうかがえる、「心に思うことのありければ」と題する和歌があります。

帰り来て 拝むも嬉し
去年の今日 思いさだめて 行きし吾妻を

宗城は、江戸から宇和島に戻った日、海の安全が祈られた住吉神社へこの和歌を供えています。



伊達宗城子女肖像写真
所蔵：福井市立郷土歴史博物館

だてさんちのひでおにえくん

作：オウガキヒトミ



【問合先】 伊達博物館 ☎22-7776

開館時間：午前9時～午後5時（受付は午後4時30分まで）
休館日：月曜日・年末年始
入館料：大人 500円 / 高校・大学生 400円 / 小・中学生 無料